

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標	具体的取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題	意見		
生徒一人一人の理解に努め、生徒の基本的な生活習慣の確立を図るとともに、自立して生き抜く力を養う	教職員の生徒理解を深める	QUアンケート、学校生活アンケート、各種会議での情報交換	学校評価アンケート	B	各種会議や委員会での情報交換をとおり、生徒の状況を把握することができた。生徒との個別面談の時間確保が課題。 QSE+：生徒79.0、保護者83.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒を受け入れている実績がある。他の機関との連携などの土台も含め、本校の魅力として発信することができるのではないかと。</li> <li>子どもは関わる大人の一言で良くも悪くも変わる。生きた言葉で接することが大切だ。</li> <li>SNSの情報管理などでもっと指導が必要。</li> <li>夏服のシャツは裾を外に出す形がだらしない見える。裾を入れる形に統一してはどうか。</li> <li>地域の方からも生徒に積極的に指導していただければ関係になると良い。</li> </ul>	寮の生活指導を含め、教職員全体で共通認識を持って指導・支援を行っていく。不十分な場面を指導のチャンスと捉え、何度でもできるまで継続して指導する体制を作る。生徒との個別面談を年間計画に入れ込み、きめ細かい支援ができるようにする。また、教室の環境美化を徹底して行う。	
	基本的な生活習慣の確立を図る	定期的身だしなみ指導、朝のあいさつ運動、ごみ分別指導	学校評価アンケート	B	あいさつは非常に良く、来校者等に高く評価していただいた。寮生活などで身の回りの整理整頓が不十分な生徒の指導が課題。 QSE+：生徒84.9、保護者QSE+83.9			
	心身ともに健康な生徒の育成を促す	講演会・講話、人権教育HR、外部相談機関等との連携、健康観察、救急訓練	学校評価アンケート 出席率、皆勤率	B	スクールカウンセラー等と連携し、生徒の健康的な学校生活を支援した。出席率は過年度より上昇しているが、欠席多数者もあり、また皆勤者が減少したことは残念であった。 QSE+：生徒81.7、保護者85.7 出席率98.5%、皆勤率22.4%			
生徒の進路実現のため、教員の授業力・人間力の向上に努め、学力の向上を図る	学習に取り組む姿勢の向上を図る	授業規律の徹底、家庭学習時間の確保、図書館活用、朝読書	授業規律アンケート、学習時間調査	B	朝読書の学期ごとの導入や、授業規律の徹底などとおして、学習時間の向上や、放課後の自主学習をする生徒が増加した。授業規律アンケートでは、ほとんどが「良い」という結果だが、一部発言規則や提出物の期限厳守などに課題のある生徒もいた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での学習を社会で応用できない若者が多い。「自分で考える」ということを学ばせて欲しい。</li> <li>幅広い学力の生徒がいる。入学後は、まず勉強の仕方を学ばせて欲しい。</li> <li>学習時間調査で記入した内容については、生徒のプライバシーを保護する観点も注意することが必要だろう。</li> </ul>	授業規律を徹底して順守するよう、全教職員が毎時間ごとに指導する。また、個別指導が必要な生徒には声をかけ、早期の対応を心がけて学力保障を行う。学習ルームに加え、図書館の環境整備を行い、教室以外でも目的に合わせて学習できる場を提供する。生徒個々について進路計画を確認し、効果的、系統的な進路支援を行う。	
	進路指導を充実させる	コース及び進路選択支援、上級学校訪問、高大連携、模試分析・検討、進路検討会、個別指導	学校評価アンケート、進路実現達成度	C	後援会の支援もあり、志を持った生徒への支援体制が充実してきたが、進路行事と生徒の進路目標へのつながりを持たせることに課題が残った。 QSE+：生徒78.1、保護者84.3			
	教員研修を積極的に行う	異校種交流、他校授業参観、教科会での授業検討	学校評価アンケート	B	研修への参加を増やして教科力向上を図り、熱意をもって分かりやすい授業を行うよう努めた。 QSE+：生徒84.5、保護者81.7			
地域を知り、地域と連携することによって、魅力と活力ある学校づくりを推進する	地域に根差したキャリア教育を実践する	ふるさと学・まちキャンの充実、ユネスコスクール活動、地域催事への参加促進	学習評価、成果発表会、催事参加率	A	地域との連携により、まちを教材とした多くの活動を行うことができた。地域から高校への催事参加要請件数も大幅に増加した。 年度末評価平均：10段階中ふるさと学6.7、まちキャン7.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちキャンにあこがれて入学したという生徒もいる。ぜひ続けてほしい取組である。</li> <li>三江線とスクールバスの関係と共存を考えていく必要がある。</li> <li>地域の声を直接聴く機会を設けてはどうか。</li> <li>HPや広報誌のより効果的な活用を検討する必要がある。</li> <li>同窓会の組織作りを進め、卒業後もつながりが持てるようにしてほしい。</li> <li>生徒の出身地域が広がり、評議員の選定も再検討の時期に来ている。</li> </ul>	地域との連携を、授業や部活動に落とし込み、持続可能な、負担感が少ない体制作りをする。活動のための渉外業務や、活動内容の広報については、魅力化コーディネーターとの連携を密に、役割分担を明確にしながら、より効果的な情報発信を行う。保護者や卒業生ともより密接に連携がとれる方策を検討する。	
	地域との連携を深める	PTAとの連携強化、学校行事への参加呼びかけ、地域系部活動の充実、HPや広報誌での情報発信	学校評価アンケート	B	学校行事への保護者や地域の参加は増加し、学校の情報が校外へ発信される手だてが確立してきた。よりきめ細かい情報発信について課題がある。 QSE+：保護者81.4			
	中学校との連携を深める	リーフレット、オープンスクールの充実、教員の中学校訪問	オープンスクール評価	B	県内外の中学生や保護者、塾経営者への説明会を充実させることができた。オープンスクールでは約200人の中学生の参加があり、アンケートも高評価であった。中学校との連携を本校入学への意欲に結びつけることに課題が残る。			
部活動、学校行事、体験活動等を充実することにより、生徒の豊かな感性や知性を醸成する	部活動への加入を促進する	部活動紹介の充実	部活動加入率	A	部活動の実際をデモンストレーションして紹介するなどの活動により、部活動の加入率が92.4%に上昇した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は結果がすべてではないがやはり負ければ悔しい。人が集まっていなければ競争もできない。一定数の部活動人数は必要。</li> <li>修学旅行など、目玉となる行事の検討も必要。</li> <li>部活動支援に不平等感がないように。特定の部に依存した形にならないことが望ましい。</li> <li>スポ少での活動経験を高校につなげたいと考える保護者、子どもも多い。</li> </ul>	部活動の再編とあわせ、地域指導者の確保や、休日などの登校手段について後援会と連携をとり検討する。魅力化コーディネーターとの連携を深めながら、生徒や職員の負担感がないよう、かつ生徒の学校生活充実や人間形成に有効に働くよう、実施方法などについて検討していく。	
	部活動の実績を向上する	部活動助成、後援会との連携、地域指導者確保	大会等実績	A	カヌー部、吹奏楽部、自然科学部の全国大会出場を始め、野球部の県ベスト8や女子バスケット部の公式戦初勝利など、多くの部で実績が向上した。 QSE+：生徒90.4、保護者87.3			
	学校行事へ自主的に関わる	生徒会のリーダーシップ、役割分担	学校評価アンケート	A	文化祭、体育祭を始め、生徒会の主体的な運営のもと、充実した行事が行われた。 QSE+：生徒87.7			